

大阪城 大阪府大阪市中心区大阪城 1-1

大阪城は戦国時代の大坂本願寺（石山本願寺）を前身とし織田信長と戦った石山合戦、豊臣秀吉による築城、大坂の陣による落城、徳川幕府による再築、明治維新の動乱による焼失、明治維新後の陸軍管轄、戦後の公園整備と日本の歴史と常に深いかかわりを持ちながら現在に至っています。いま見ることができる石垣や堀、大手門・多聞櫓・千貫櫓などといった古建造物はすべて徳川時代以後のもので、一帯は国の特別史跡に古建造物のほとんどは重要文化財に指定されています。天守閣は、豊臣時代・徳川時代に続く3代目のもので、昭和6年（1931）市民の寄付金によって復興されました。現在まで90年以上の歴史を刻み、国の登録文化財にも指定されています。（説明版）



大阪城の濠は江戸城より広い



大手門



控柱下部の継手の技法



大手口枅形の巨石



肥後熊本藩主加藤忠広が築き肥後久留米藩有馬豊氏(ようじ)が改築



銀明水井戸



枅形虎口に残る肥後石(2番目の大きさ) 袖振石(3番目の大きさ)





大阪城の天守



金明水井戸



刻印のある石垣が多数



銃口の跡の石垣



秀頼と淀殿の自刃の地



桜門枳形虎口内にある蛸石(日本一の鏡石)



大阪城の空堀